



2017～2018年度
茅ヶ崎中央ロータリークラブ
会 長 方 針

第34代会長 峯 山 文 明



《会長スローガン》

1、互いへの思いやりを持ち続けよう

- ・会員相互の依頼と承諾は、押付けでは無く気持ち良く引き受けよう
- ・例会を連続して欠席している会員に声を掛け例会出席に誘おう
- ・委員会運営は委員長だけでなく皆で推進していく意識を持とう
- ・クラブ内で年上・同世代・後輩の相談相手を見つけよう

2、奉仕を自身の手で確かめよう

- ・クラブ奉仕は手を掛けるほど会員同士の連帯感が深まります
- ・職業奉仕、先ず自分の事業の倫理(人が行うべき道)を実践しよう
- ・社会奉仕事業に参加すると充実感を学びとれます
- ・国際奉仕事業の成果を検証し、次の事業を掘り起こしましょう

3、例会頻度、形式、出席の柔軟性を持とう

- ・例会の柔軟性をもちます
- ・出席率向上は原則無いが、連続での欠席は意識して無くそう
- ・会員から卓話者の推薦を積極的に受けます
- ・地区研修には担当者以外の会員も出席し、情報収集可能としたい

《会長方針》

- ・2017～2018年度は、変化の年になると思います。1つ目は7月より例会場が変更になり、2つ目は例会日がクラブ設立以来の金曜日から火曜日に変更されます。
- ・35周年記念事業の候補を複数計上し、そして選択と準備段階に入ります。先ずは本年度のスローガンを3つ掲げ推進していきますのでご協力お願いします。奉仕部門についても、理事、委員長の提案を実現できるよう後押しします。
- ・次年度への引継ぎ(事業報告等)は口頭か、文面により伝えていきたい。
- ・例会場の変更により、新しい運営を構築していく。座席の指定を取り混ぜながら会員による私語はできる限り慎んでもらい雑談タイムを設けます。
- ・外部卓話者とクラブ地区出向者3名の報告発表を定期的に行う。
- ・会員相互にどのような仕事をしているか理解し合うために例会時10分間ほどスピーチを計画的に行う。炉辺会合の計画も会場監督と図って実施。
- ・友好クラブの松江しんじ湖RCの4月第二火曜日の観桜会に多くの会員と訪問したい。

《各奉仕事業について》

- ・親睦行事は例年通りの浜降祭、花見例会、花火大会、年次総会は箱根河鹿荘宿泊、クリスマス家族例会、会長幹事慰労会は家族とともに楽しめるよう企画する。
- ・例会前に過去実施したプロジェクトや卓話者のフォトやスライドショーを流したらどうか。
- ・クラブのWEBでのホームページ作成に関わる実務は神尾会員と當間会員に対応。
- ・クラブ広報はHP公開の週報のまとめと、外部卓話者やクラブ活動をタウン誌へ連絡
- ・ロータリーソングはまだあるレパトリーを広げ、高らかに歌う。
- ・会員名簿作成、紙面、WEB双方でスマホで見れるよう、会員増強委員会が担当。
- ・会員勧誘時にマニュアルとクラブ会員名、職種が解る名簿を作成し携帯する。
- ・入会见込者がいる時はロータリー研究会に招待、クラブ行事に誘ってみる。
- ・奉仕事業については2017～2018年度地区補助金をもらって、奉仕プロジェクトである「パキスタン家庭健康教育プログラムに伴う救急箱の支給」を実施することになり4,500ドルが配分決定しました。
- ・社会奉仕は活動として「ゆいの会」と共に海岸線に植物の植樹を2回目として増設し食すことが出来ないか、保全活動の看板設置は許可されるのか検討したい。
- ・正月2日3日の第4回新春凧揚げ大会参加
- ・ひきつづき、フィリピンへの事業を進めていく
- ・ロータリー研究会の遂行は三澤研修委員長が水口会員と進める
- ・財団の年次基金への寄付はDDF(地区活動資金)とWF(国際活動資金)になるので例年通りをお願いします。
- ・クラブ戦略委員会は35周年の事業企画の準備に入る。
- ・EPP委員会は3年間の支援報告と最終のまとめの方向を会員に知らせる。

幹事

野崎幸夫

会長方針のもと例会に柔軟性を持たせ、互いの思いやりを持ち、奉仕を自身で確かめられるよう会の運営に努めます。

会場監督

委員長 神尾元洋
委員 内田誼郎

本年より例会日が火曜日に、また、例会場も変更になります。装い新たな会場で例会に集う会員や来訪者、来賓の皆様が気持ち良く参加できるよう、品位ある例会運営を牽引サポートして参ります。

職業奉仕委員会

委員長 城田安正
委員 沼上憲雄

職業奉仕、先ず自分の事業の倫理(人が行うべき道)を実践しよう。時代において職業自体脅かされる時代になりました。エネルギーの省力化、AIやロボットによって代替化されるこの時代の職業奉仕と職業倫理を勉強できる年度にしたいと思います。

クラブ奉仕委員会

理事 當間安弘

プログラム・親睦・友好クラブの三人の委員長を中心として、メンバー全員体制で、常に問題の共有化を図り、風通しの良い委員会を目指します。

プログラム委員長(副幹事) 湯山文夫

クラブの例会をとうして、会員の皆さまに情報を提供すると共に、会員相互の交流の場になるよう努力してまいります。

親睦委員長 嵯峨野 貴央

毎年続いております当クラブの会員家族が、仲良く楽しんで参加して頂ける例会・懇親会をメンバーと共に楽しみながら一年間企画運営して参ります。

《予定行事》

- | | | | | | |
|---------|-------|---------|-----------|--------|---------|
| ・浜降祭懇親会 | 7月17日 | 海の家「浜磯」 | ・花火大会例会 | 8月5日 | 海の家「浜磯」 |
| ・年次総会 | 12月5日 | 河鹿荘 | ・クリスマス例会 | 12月19日 | |
| ・お花見例会 | 4月3日 | 移動例会 | ・会長・幹事慰労会 | 6月26日 | |

委員 森下 行由 関野 智玲 阿波連 教智
清野 克人 峰 絵里子 山口 英雄
林 正基 魚 躬 剛 一 杉 直樹

ソングリーダー 松井 昭彦

例会の冒頭に歌うことにより、クラブ会員が一つになります。元気に歌いましょう。1年をかけて委員会のメンバーが、交代で指揮が出来るようにしていきます。

スマイルリーダー 山崎 正三

嬉しかったことや会員個人の記念日に寄付することがスマイルと定義づけられています。これからの五大奉仕活動資金です。会員数も増えているので前年並みを目標にします。

出席リーダー 中川 信義

出席は親睦が得られる、まずはじめの奉仕です。一人一人の主体性を尊重しつつ、自クラブの出席向上に努めます。又、出席できなかった会員へは、他クラブへのメーキャップ（欠席補填）をすすめて参ります。

友好クラブ委員長 松本 学

委員 佐々木 保博 小川 一雄

友好クラブである松江しんじ湖ロータリークラブとの、今までの良好な関係を維持すると共に、更に相互交流を深め両クラブの関係強化に努めて参ります。

会員増強委員会

理事 倉澤 条太

会長方針である、内容を重視した週報作成を念頭に置きながら、当クラブの特色、魅力を広く内外に発信することにより、意欲ある仲間の加入を推進してまいります。また4年ぶりに名簿を作成いたします。

会員増強委員長 阿波連 教智

委員 城田 安正 内田 諠郎 関野 智玲

ロータリークラブがどういった団体かを広く知っていただき、その中でも茅ヶ崎中央が居心地良く開かれたクラブだという事を感じてもらい新会員の加入に繋げて参ります。

- ・メンバー各位への紹介働きかけを改めて行う。
- ・青年会議所・商工会議所等他団体との交流を持つ。
- ・55名体制の維持はもちろんのこと、将来の60名体制構築の足がかりとなるよう活動致します。

クラブ広報委員長 峰 絵里子

委員 熊沢 信行 山口 英雄 林 正樹

まだまだ新人の私が委員長という大役を命じられ不安な要素もありますが、茅ヶ崎中央のメンバー全員大好きな私は先輩方が積み重ねてきたしきたりを崩さずに、でも自分が楽しんでやる事で新会員の方もこのクラブに入って良かったと思ってもらえる様な発信をしていきたいと思ひます。

会員選考・職業分類委員長 水口 學一

委員 岡崎 将剛 高橋 功

ロータリーとは何かをよく理解されている人を選出して本人の人格、職業上の社会的地位、奉仕活動の精神を規則正しく例会出席の可能性を審査して優秀なメンバーを選出する。

職業分類、分類表に基づき充填部門の職業の方を重点的に対処し、新しい職業があれば再度追加する。

奉仕プロジェクト委員会

理事 相馬 秀幸

奉仕プロジェクトを務めるにあたり、大役ではありますがロータリー精神を忘れず奉仕に努めたいと思います。国際奉仕は4年にわたる奉仕を継続していき、社会奉仕は継続している事業の他に新たな事業を計画しながら、国際奉仕・社会奉仕各委員会運営がスムーズに行えるように努めていきたいと思ひます。

社会奉仕委員長 大村 浪雄

委員 前川 義憲 加藤 順一 関野 智玲

- 1、継続事業として一昨年から茅ヶ崎海岸づくりイベント「新春凧揚げ大会」及び昨年のNPOゆいの「里浜みどりのプロジェクト」への参加協力。
- 2、大谷ガバナーの重点項目の一つである公共イメージと認知度の向上に応えるべく「茅ヶ崎市民まつり」での「END POLIO NOW キャンペーン」への参加協力。
- 3、ロータリークラブの活動を一般市民にアピールする為のお揃いの着衣の購入。

国際奉仕委員長 倉知 克則

委員 小山 博樹 池亀 武士 林 正基

- 1、フィリピン Tailpapa 小学校、生徒数1200名へのRCマーク The 2780 district RC Chigasaki Chuo のロゴ入り スクールバック配給支援事業も2014年6月に559個から始まり、今年度2017~2018年は250個配給支援します。なお、上記事業に際しフィリピン The 3800 district RC Sampaguita Grace Park には大変ご尽力頂き、相互の親睦並びに信頼を築くことができました。今後の新たな奉仕事業につなげて行きたいと考えています。そして、8月の創立記念例会に参加します。
- 2、姉妹クラブの台湾北門との交流も更に深めていきます。

ロータリー情報委員会

理事 田中 重光

当委員会はロータリーのことを会員の皆さんにより理解してもらうように努めます。

手法としましてはロータリー研究会、新会員研修、「ロータリーの友」の紹介、米山月間、財団月間などを活用して行いたいと考えます。そうしたうえで米山・財団の寄付は目標に達するよう協力を呼び掛けます。

次年度も奉仕活動に地区の補助金を活用するようでしたら奉仕プロジェクトと力を合わせ、申請をしていきます。

研修委員長 三澤 護

委員 堀川 正夫 松岡 慶純 山田 悦子

- ・ロータリー研究会のバックアップ
- ・新会員のバックアップ
- ・奉仕プロジェクトのバックアップ
- ・会員の高齢化に対するバックアップ
- ・メイキャップのバックアップ

財団委員長 本間 多佳泰

委員 鈴木 和夫 藤原 琢也 山口 建

ロータリー財団の内容を会員に理解してもらい、目標とする寄付金額（200ドル+ポリオ40ドル）を協力

いただけますよう努めます。また、送金時のレートが円高となるように願っております。

米山奨学委員長 長 田 洋 二
委 員 山 口 洋 一 郎 木 村 康 治

事業の使命

将来、日本と世界とを結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動のよき理解者となる人材を育成すること。これはロータリーの目指す「平和と国際理科の推進」そのものである。どういう人が選ばれるか。

- 1、日本の大学・大学院（高等専門学校専攻科・専修学校高度専門士過程を含む）に在籍、又は在籍予定の外国人留学生。
- 2、学位の取得を目的とする者。
- 3、学業優秀の他、異文化理解、コミュニケーション能力に対する姿勢があり、心身ともに留学生活に耐える健全な者。

受給期間 最終学年の最高2年間

語学力 地区によりかなり差がある・第2780地区は日本語運用力を専攻の対象にしない

指定校 第2780地区に17校あるロータリーとの事業

- 7月16日 海岸清掃（義務）地区主催
- 8月 カウンセラーによる研修会
- 9月18日 茶・菓子の接待（地区大会）
- 10月 1泊研修旅行－米山記念館－墓参り－富士山－職場見学
- 10月 米山月間 米山留学生の卓話
- 11月 国際交流会 留学生が郷土料理をロータリアンに提供
- 12月1日 面接
- 2月 修了式

クラブ戦略委員会

委員長 池 亀 武 士

委 員 藤 原 琢 也 松 岡 慶 純 峯 山 文 明
野 崎 幸 夫 大 村 浪 雄 當 間 安 弘
山 口 洋 一 郎 山 本 泰 然 湯 山 文 夫

創立35周年の準備の年と考えて記念式典、記念事業をどの様に行えば良いか提言して行きたい。

- 1、記念式典・記念例会どちらにするか。
記念旅行は（25周年は沖縄で行った）するのか。
- 2、記念事業はどうするか。
委員会としては東日本大震災で大槌を支援したのでその後どうなっているのか検証したい。
- 3、地元支援に何が有るのか調査したい。
- 4、クラブ協議会で全員の意見を集約したい。
- 5、会員にアンケート調査の実施

パキスタン家庭健康教育プログラムは当クラブが担当している資金（年間100万円）提供は藤原会長年度2016年8月送金をもって会計的には終了。

実質的プログラム終了は2017年12月末になる。その前11月頃研修成果の確認の為最終現地調査と研修に多大な御協力を頂いたNRSP現地スタッフ・レディースヘルスワーカー指導者・優秀レディースヘルスワーカーの表彰と最終報告書の作成。

<表彰の実施>

場 所：カラチ

日 時：11月頃（最終現地調査時）

招待者：パキスタン政府関係者・駐パキスタン総領事館関係者・NRSP関係者・ASP関係者・ロータリー関係者・報道関係

表彰対象者：NRSP現地スタッフ・レディースヘルスワーカー指導者・

受講者の中で模範となる人、得た知識をコミュニティーに広めた人

表彰状

記念品

<最終報告書の作成>

パキスタン家庭健康教育プログラムを統計表にまとめて論文形式で作成した最終報告書を目指す。

国連機関・国内外協力機関と共有。

地区補助金50万円（緊急医療用救急箱）が8月振り込まれる。

使途指定寄付金40万円（相馬会員よりの寄付）はパキスタン家庭健康教育プログラム・表彰式用に使用。

<国内の協力機関>

外務省・厚生労働省・国連人口基金・パキスタン大使・国会議員・国際医療センター・国際ロータリー日本事務局・公益財団法人ロータリー米山奨学会・公益財団法人ロータリー日本財団・ロータリーの友事務所・松江しんじ湖RC・AMDA・毎日新聞社・神奈川新聞社

<国外の協力機関>

駐パキスタン日本大使・駐パキスタン日本総領事・パキスタンポリオ撲滅対策担当ファルーク首相補佐官・アジスメモン国際ロータリーパキスタンポリオプラス委員長・台湾衛生福利部国際合作組・台北北門扶輪社・NRSP

